

---

# だって夏だからさ

きなこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だつて夏だからさ

### 【ZPDF】

Z9112L

### 【作者名】

きなー

### 【あらすじ】

部長に怒られた部員2名

寒いくらいの車内から開放されると、今度は痛いくらいの紫外線と熱風に襲われた。

「暑い…………」

「…………」

「暑い暑い暑い暑い。」

「暑いとも言えなくしてやるつが。」

「『』みんなさー。」

だって、こんなのがりえない。天気予報では今日の予想最高気温は32度だった。そんな気温で人類は生存していくのだろうか。

少なくとも私の生存確率は限りなく低くなるはずだ。夏つて恐ろしい。

「かき氷が食べたい。」

「…………いいか、お前。世界には气温50度の中で頑張ってる方たちもいるんだ。そんな皆さんになんて言い訳するんだ。」

わざか32度かき氷を食べてしましたなんてお前言えるのか。

「

「胸を張つて言へる。」

「……………そ、うだな。俺も言へる。」

暑さで私たち2人も頭がおかしくなってしまったようだ。そつ、頭がおかしくなったんだあの鬼部長も。この暑さの中隣町まで軒賣買いに行けなんて狂つてゐるジーザス！

「お前も、いい加減つるせえよ。思つたこと口に出してるから。暑苦しいから。湿度30%アップだから。」

「1)みんなさい。」

そんな事言われても、もうそろそろ意識も朦朧としてきたからしうがない。湿度だってこれ以上上がれないって言つてる。ほり、湿度さんがもう限界だつて言つてるよ。

「だからひぬせえよー。」

「すんませんー。」

よつやくたゞり着いたコンビニで私たちは6人分の部員の冷やし素麺を買つた。部長にはカレーライスを買つた。（気持ち悪くなつて吐いてしまえばいい！）

「でもや、あれだよね。」

「ん？」

「近々のパンデミーもぱれなかつたよな。」

「あー。・・・・・・・・・・・・・・・・・・夏つてやうこいつ季節だよな。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9112/>

---

だって夏だからさ

2010年10月14日18時00分発行